



アルミサッシ処理新会社

豊通グループ 川島グループ 豊通ソーテック設立

豊田通商グループの豊通マテリアル（本社＝名古屋市中村区、浅井繁社長）と川島グループの三光埼玉（本社＝埼玉県北葛飾郡杉戸町、黒川幹仁社長）は14日、アルミサッシスクラップの選別加工を行う「豊通ソーテック」を10月31日に設立したと発表した。サッシ・トウ・サッシの水平リサイクル拡大が目的。2025年8月から生産を開始する予定。

水平リサイクル拡大

新会社は兵庫県赤穂市に本社を置く。敷地面積は約1万9000平方メートル。設置する設備などは今後、両社で検討

討を進めていく。従業員数は25人を見込む。社長には豊田通商の田形拓郎氏が就任。資本金は4・9億円で、豊

通マテリアルが80%、三光埼玉が20%を出資する。新会社は市中から集荷したアルミサッシス

クラップを原料に破碎・選別工程を経て、鉄などの金属や木くずやプラスチックなどの非金属を除去し、リサイクルアルミ原料に加工する事業を手掛ける。今回の事業で豊通マテリアルは自動車産業で培った循環型静脈事業の知見を生かし、原

料集荷と豊通ソーテックへの販売、リサイクルアルミ原料の販売、事業運営などを行う。三光埼玉は蓄積してきた経験とノウハウを生かし、技術・生産支援と選別加工設備の保全支援、業者育成などを担当する。リサイクルアルミ原

料は、建材だけでなく電気自動車（BEV）向け自動車部品などへの活用も見込まれる。同社では高品質なリサイクルアルミ原料の供給を通じ、サーキュラーエコノミーとカーボンニュートラルの実現に向けて貢献を図っていく考え。